

5-1 東海地方及びその周辺の地震活動

Recent Seismic Activity in and around the Tokai Region

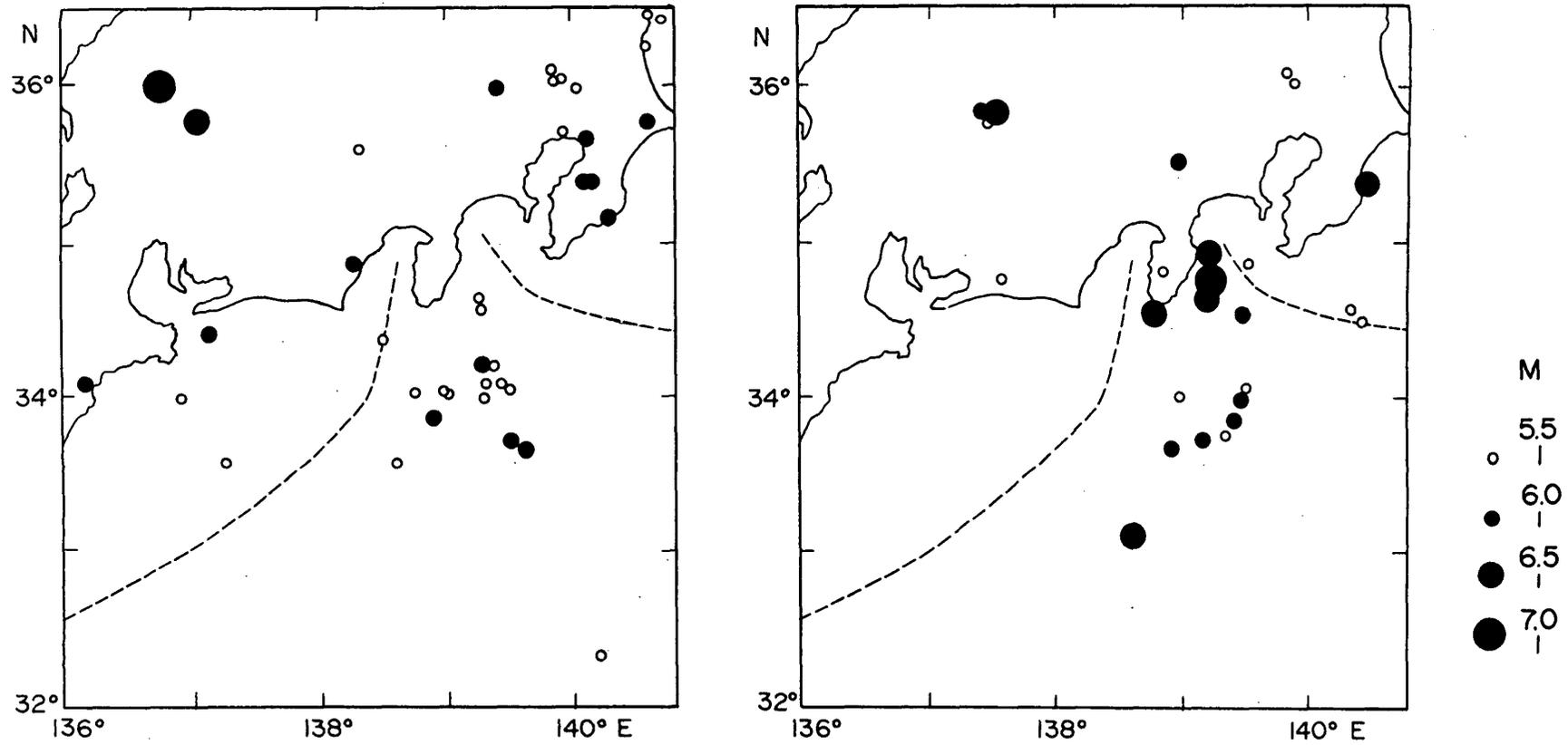
日本大学 茂木清夫

Kiyoo Mogi, Nihon University.

1950年以降の東海地方及びその周辺の浅い地震活動の長期的変化を見ると、最近の約20年間に特徴的なパターンが認められる。第1図は(1950~1972年)と(1973~1991年10月)の2つの期間におけるM5.5以上の比較的大きい地震の分布図である。後者においては東海地域が静穏化したと同時に、それを取り囲む周辺で大粒の地震が多発して居り、これが大地震の前にしばしば見られるドーナツパターンと似ているようにも見えるので注目される。第2図は想定されている「東海地震」の震源域(斜線の領域)とその周辺部の活動の時間的空間的变化を示したもので、上図はM-Tグラフ、下図は縦軸に緯度をとった時空間分布図である。1974年頃からごく最近まで、大粒の地震が起り続けていること、上述の特徴的なパターンが最近になって一層明瞭になってきたことがわかる。

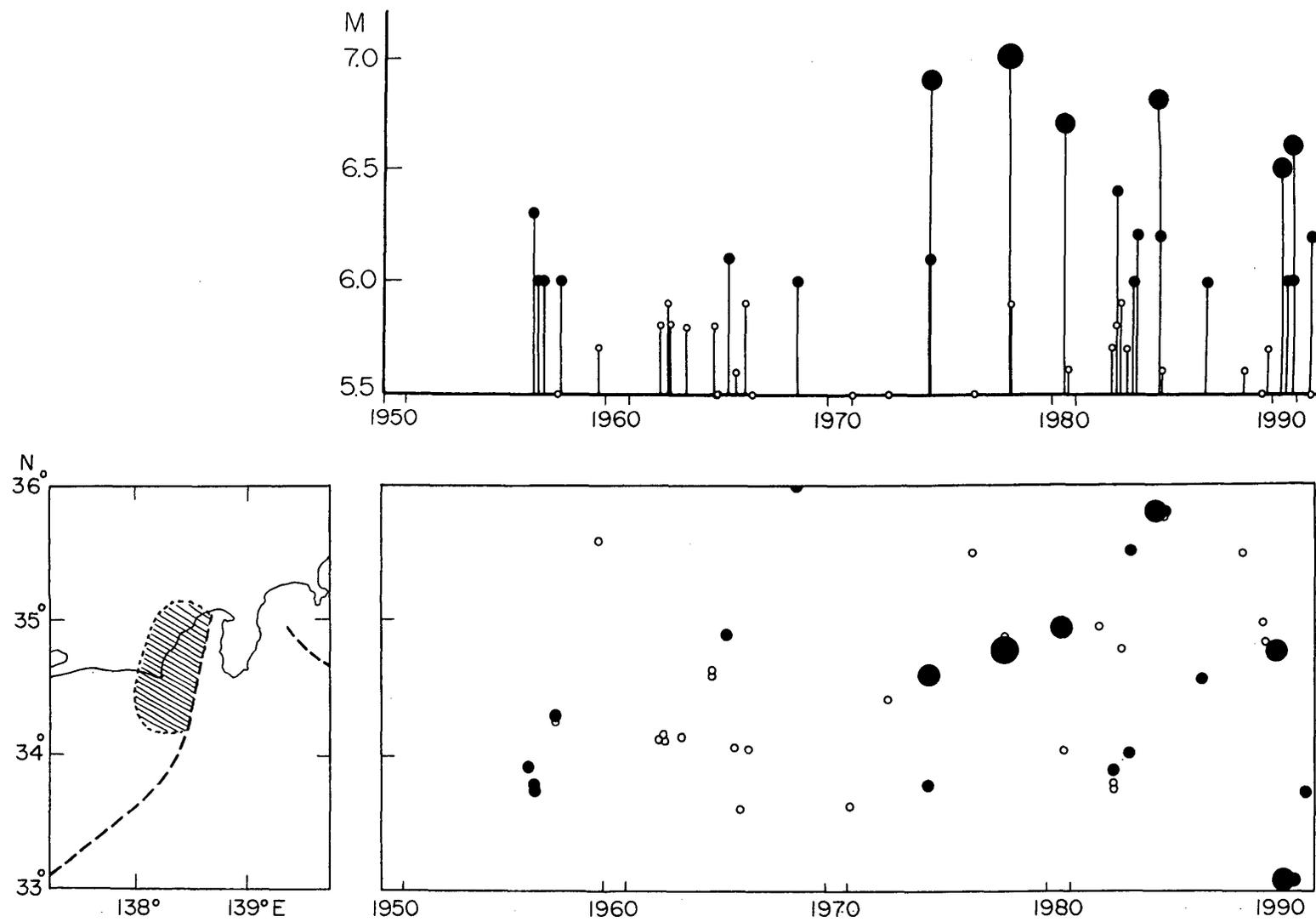
1950 - 1972 (22ys.)

1973 - 1991₁₀ (19ys.)



第1図 東海地方及びその周辺におけるM5.5以上の60kmよりも浅い地震の震央分布。左：1950～1972，右：1973～1991年10月

Fig. 1 Epicentral distributions of Shallow earthquakes of M5.5 and larger in and around the Tokai region. Left: 1950 - 1972; right: 1973 - 1991 Oct.



第2図 東海地域周辺におけるM5.5以上の浅い地震の時空間分布

Fig. 2 Spatio-temporal distributions of recent shallow earthquakes of M5.5 and larger in and around the Tokai region.